

# 石川県立美術館だより

平成17年6月1日発行 第260号



重文 孔雀明王像 快慶作  
鎌倉時代 金剛峯寺蔵

## 弘法大師空海 その信仰と名宝展

5月19日(木)～6月12日(日)会期中無休  
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

### 目次

弘法大師空海 その信仰と名宝展 .....	2	夏休み親子で楽しむ美術館 親子で鑑賞会 ...	6
甲冑と陣羽織 .....	3	美術館の本 .....	6
加賀・能登の名宝(後期).....	3	企画展示室、各地の展覧会.....	7
次回のコレクション展示室 .....	4	6月の行事案内 .....	7
今月のコレクション展示室 主な展示作品...5		所蔵品紹介、ミュージアムショップ通信他...8	

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

企画展示室(第7~9展示室)

# 弘法大師空海 その信仰と名宝展

5月19日(木)~6月12日(日) 会期中無休

主催 / 弘法大師空海 その信仰と名宝展実行委員会、  
北國新聞社、石川県立美術館、  
高野山真言宗総本山金剛峯寺、(財)高野山文化財保存会



●響聲指帰 空海

高野山は、弘法大師空海(七七四~八三五)により弘仁七年(八一六)に開創されました。以来、真言密教の修禪の聖山として、また多くの人がひとが篤い信仰を寄せる弘法大師信仰の霊場として広く知られています。その結果、今日に至るまで日本の宗教文化、さらには日本の精神文化の根幹を支える聖地となり、宗派を超えた人びとの心のよりどころとして発展してきました。

こうした長い歴史の中で、高野山には貴重な文化財の数々が蓄積されてきました。空海による唐からの請来品をはじめ、高野山で創造された豊麗な密教美術品、皇族や時の権力者より寄進された品々、さらには戦火を逃れて各地から集まつてきた文化財など、わが国最大規模の文化財が今も守り伝えられることから高野山は「山の正倉院」とも呼ばれています。

加賀藩主前田家とのかわりも深く、高野山奥の院には前田家の墓所もあり、三代藩主利常は夫人珠姫の菩提寺として、金剛峯寺前に大徳院を建立しています。また五代綱紀は「東寺百合文書」の保存で、今日の文化財保存の先駆けともいえるべき事業を行っていますが、これは広い意味で、前田家が弘法大師によせた信仰の証ともいえるものでしょう。

こうした縁もあって、今回金沢を会場として北陸の地で初めて展覧会が開催されることになりました。国宝六件、重要文化財二十八件を中心に八〇件を精選して紹介します。一二〇〇年という壮大な歴史に裏付けられた高野山の文化の香りとその奥深さを存分に堪能いただければ幸いです。

【主な展示作品】● 国宝 ● 重要文化財

- 響聲指帰 空海筆 平安時代 金剛峯寺蔵
- 諸尊仏龕 唐時代 金剛峯寺蔵
- 八大童子立像の内 恵光童子、制多加童子 金剛峯寺蔵
- 澤千鳥螺鈿時絵小唐櫃 運慶作 鎌倉時代 金剛峯寺蔵

- 善女竜王像 定智筆 平安時代 金剛峯寺蔵
- 紺紙金銀字一切経(中尊寺経) 平安時代 金剛峯寺蔵

- 弘法大師坐像 室町時代 金剛峯寺蔵
- 孔雀明王像 快慶作 鎌倉時代 金剛峯寺蔵
- 武田信玄像 長谷川信春筆 桃山時代 成慶院蔵
- 豊臣秀吉像 江戸時代 蓮華定院蔵

観覧料

個人		団体(20名以上)		
一般	1,200円	一般	900円	
中高生	800円	中高生	500円	
小学生	600円	小学生	300円	

当館友の会員は受付での会員証提示により、団体料金になります。



●八大童子立像の内 恵光童子 運慶



●八大童子立像の内 制多加童子 運慶



●澤千鳥螺鈿時絵小唐櫃

# 今月のコレクション展示室

(前田育徳会展示室)

特集

## 甲冑と陣羽織

5月19日(木)~6月19日(日)

天正十一年(一五八三)加賀藩祖前田利家の金沢入城の時期に合わせて開催するもので、歴代藩主の甲冑と陣羽織並びに鞍や鎧などを併せて展示します。

わが国の甲冑の歴史をみますと、弥生時代中期の木甲片(小松市、八日市地方遺跡)や弥生時代後期の短甲状木製品断片の出土例をはじめとして、古墳時代には鉄板短合の短甲がみられるようになり、さらに奈良時代にかけて、穿孔の鉄小札を紐で連結して作る珪甲へと変化します。そして平安時代になると、大鎧というわが国独自の様式が生まれました。やがて鎌倉後期になると、従来の騎射を中心とする戦の形態から、集団の徒歩打物の合戦へと変化をみせるようになり、機敏な動きを得るため軽装の腹巻や胴丸のスタイルが普及するようになり、そして室町時代には、面具・籠手・佩盾・脛当などを加えて隙間なく身体を覆うようになり、戦国時代になると、槍の普及と鉄砲の使用への対応から、より堅牢で実用性あるものが求められるようになりました。また安土桃山時代には、南蛮交易による西洋甲冑の影響を受け、変わり兜を含めた多彩な意匠の甲冑が作られるようになり、またこのような時代背景から様々な甲冑の要素を総合してできたのが当世具足です。特に加賀藩で作られた甲冑は加賀具足と称され、質素で実用本位の甲冑にあっても様々な素材を用い、優れた技術の粋が尽くされた豪華な総合工芸品として評価されています。

一方、陣羽織は、戦場において甲冑の上に着用した胸形のもので、はじめは雨露をしのぐためのものでしたが、やがて武威を表す役割も加わり、羅紗やビロードなどの高価な素材を用い、デザインにも工夫が凝らされ斬新な意匠のものが作られるようになり、江戸時代以降は、甲冑、陣羽織とも実用的なものから儀礼的なものへと変化し、装飾的な要素が強まるようになり、

江戸時代以降は、甲冑、陣羽織とも実用的なものから儀礼的なものへと変化し、装飾的な要素が強まるようになり、

「加賀・能登の名宝」(後期)では、前期に引き続き、石川県内に伝わる国宝・重要文化財などの指定文化財を中心に紹介します。いずれも当地の歴史を踏まえた文化財です。

加賀・越前・美濃の三国にまたがる白山は、古来より信仰の拠所として、人々に崇められてきました。各々の国から白山へ至る道(白山の三馬場)が開かれ、うち加賀馬場の本宮であった白山宮(白山比咩神社)には、多くの社宝が伝えられています。鎌倉時代の刀工・吉光の銘を持つ剣もその一つで、国宝です。両鎧造で、刃文は直刃。茎には「吉光」の刻銘があります。明暦三年(一六五七)に加賀藩五代藩主前田綱紀より奉納されたもので、綱紀の母であった清泰院(徳川家光の養女・阿智)が四代藩主光高に嫁いだ時の持参品と伝えられています。明暦三年は清泰院が没した翌年であり、綱紀は母の冥福を祈願したのでしょうか。白山信仰に関わる作品としては、その他、長光の銘を持つ太刀(重要文化財)と、江戸時代に白山宮へ納められた「白山曼荼羅図」(能美市蔵・県指定文化財)を紹介します。

加賀市の菅生石部神社は、江沼地方の五穀豊穡・万民富饒を願って、敏達天皇の禁裏に勧請されていた神々を遷座したことに始まります。よって、朝廷の崇敬は代々厚く、十六世紀の中頃までは神宝御衣が奉納されました。江戸時代以降は、加賀・大聖寺両藩の崇敬を受けたため、前田家より寄進された品々も多く伝えられます。重要文化財の「正親町天皇宸翰御詠草」は、永禄四年(一五六一)の八月十五日の夜、三条西公条の歌会において「閑見月」という題で正親町天皇が詠んだ(夜とともにむかふかうちは空の月しつかにすめる閑起りをそ見る)折の懐紙で、戦乱の世にありながら、静かに秋の月を愛でようとする天皇の心情が表れています。

本特集ではこれらに加え、俵屋宗達筆「檜櫓図屏風」、俵屋宗雪筆「群鶴図屏風」、「時絵梅鉢紋女儀御輿」(いずれも県指定文化財)なども紹介します。

# 今月のコレクション展示室

(第2展示室)

特集

## 加賀・能登の名宝(後期)

5月19日(木)~6月12日(日)



● 剣 銘吉光 白山比咩神社

次回のコレクション展示室

第2、6展示室 6月16日(木)～7月18日(月・祝) 前田育徳会展示室 6月21日(火)～7月18日(月・祝)

第5展示室

特別陳列  
作陶55年記念  
北出不二雄の世界



北出氏制作風景

北出不二雄氏は養父北出塔次郎のもと、加賀市栄谷町の青泉窯で九谷の伝統に立脚して色絵や造形を研究し、彩釉陶という独自の技法を確立しました。また石川県山中町の古九谷古窯調査に参加するなど、古九谷研究にも深い造詣があります。さらに同氏は、九谷焼技術保存会会長、金沢美術工芸大学学長として後進の指導にもあたり、石川県の美術工芸の発展に大きく寄与されました。

作陶五五周年を記念して開催される本展は、北出氏の作陶の歩みを、初期から近作までの約三十点でたどるとともに、何よりも注目頂きたい趣旨として、同氏の美意識・造形思考を知るために、同氏が選定した本館所蔵の古九谷十一点をコメントを添えて展示します。

従来とは、ひと味違う切り口に是非ご期待下さい。

前田育徳会展示室

特集  
近代の美術

前田家歴代藩主は、三代利常、五代綱紀をはじめとして古文書、書籍、典籍を収集し、美術工芸を育成してきました。そして前田育徳会には、これら収集された文化財、育成された美術工芸品が収蔵されています。が、いわゆる古美術品だけでなく、明治以降の日本画・油彩画・彫刻や19世紀から20世紀初めの西洋絵画などの近代の美術品も収蔵されています。これらの蒐集には十六代当主利為侯が深くかかわっており、その経緯はおおむね次のように分けられます。

明治四三年の明治天皇と皇后の本郷邸行幸啓に際し、新築された洋館の装飾用に購入した作品  
欧州出張・滞在中に自身で購入した作品

依頼して描かせた作品 展覧会買い上げ作品等  
進呈を受けたり、記念に贈呈された作品等

今回は、日本画・油彩画・彫刻や西洋絵画など二三点を展示する予定です。

第2展示室

特集  
古九谷・再興九谷名品展  
(前期)



色絵鶴かるた文平鉢

九谷焼の歴史をたどると、最も早く登場するのが古九谷です。その豪放華麗な意匠は、伊万里焼、京焼とともに日本の三大色絵として早くから高く評価され、世界的な名陶として知られています。当館では、今春三月に新たに石川県指定文化財となった青手桜花散文平鉢など県文七点を含めて約五十点を所蔵しています。

再興九谷は、江戸時代後期に加賀の各地で古九谷以後活動した窯の総称です。金沢城下では春日山窯、民山窯が、南加賀では吉田屋窯、宮本屋窯、小松・能美では若杉窯、小野窯、蓮代寺窯といったところが代表的な窯で、粟生屋源右衛門・永楽和全・九谷庄三の名も知られています。

今回の展示では、第5展示室での特別陳列「北出不二雄の世界」へも古九谷を出品しており、作陶に古九谷から大きな影響を受けたとする北出氏の作品とあわせてご覧いただきたいと思えます。

# 今月のコレクション展示室 主な展示作品

5月19日(木)~6月19日(日) 前田育徳会展示室  
5月19日(木)~6月12日(日) 第2~6展示室

● = 国宝      = 重要文化財      = 重要美術品  
= 石川県指定文化財



緊張の刻 白尾勇次

## 前田育徳会展示室

特集 甲冑と陣羽織

時代鞍

瓢箪文銀象眼鏡

黒漆塗六十二間甲冑

錠羽形甲冑

猪目文陣羽織

鍾馗幟

## 第1展示室

●色絵雉香炉

色絵雌雄香炉

## 第2展示室

色絵布袋図平鉢 古九谷

青手樹木図平鉢 古九谷

特集 加賀・能登の名宝(後期)

●剣 銘吉光

太刀 銘長光

後奈良天皇女房奉書

緑地桐鳳凰文唐織

槇檜図屏風 依屋宗達

群鶴図屏風 依屋宗雪

特集 優品選(第3~6展示室)

## 第3・4展示室(油彩画・素描・彫塑)

油彩画

ÉTUDE (A)

緊張の刻

黎明に

家居

裸女達に捧ぐ

麦秋

催眠術(馬)

素描

月に叫ぶ

裸婦

岸浪柳溪

野々村仁清

野々村仁清

野々村仁清

白山比咩神社蔵

白山比咩神社蔵

気多大社蔵

個人蔵

鴨居 玲

白尾勇次

田賀亮三

中村研一

宮本三郎

村田省蔵

吉田富士夫

鴨居 玲

木下 繁

舞妓  
マライの婦人

彫塑

春を包む

正三角形の内と外

身辺モデル―類似化―

SLIDE 5

山羊を飼う老人

## 第5展示室(工芸)

陶磁

白地黒絵あじさい文壺

漆工

双魚飾皿

染織

友禅白地紫陽花文訪問着「清裳」

金工

鉄打出鳩置物

木竹工

桑造平卓

截金

木彫截金香の匣「みくまの」

## 第6展示室(日本画)

山肌の輪廻

帽子の女

水辺

街

午後

残照

観覧料

観覧料

南 政善  
宮本三郎

矩 幸成

末政哲夫

宮崎豊治

山下晴子

吉田三郎

石黒宗磨

三谷吾一

羽田登喜男

山田宗美

島村秀斉

西出大三

石川 義

坂根克介

沢野慎平

鹿見喜陌

中出信昭

曲子光男

一般 350円	個人	団体(20名以上)
大学生 280円		
高校生以下は 無料	個人	団体(20名以上)
一般 280円	個人	団体(20名以上)
大学生 220円		
高校生以下は 無料	個人	団体(20名以上)



街 鹿見喜陌



白地黒絵あじさい文壺 石黒宗磨



山羊を飼う老人 吉田三郎

# キッズ プログラム 体験講座 参加者募集!!

## 夏休み親子で楽しむ美術館 親子で鑑賞会

親子で楽しむ、作品鑑賞・制作体験のワークショップです。

### 第1回 彫塑に挑戦! 小学校1・2年生

7月26日(火)

対象:美術に関心のある小学校1・2年生とその保護者。  
(親子参加型なので必ず保護者同伴)

内容:展示室で作品鑑賞の後、粘土を使って簡単な制作体験をします。

### 第2回 工芸に挑戦! 小学校3・4年生

7月28日(木)

対象:美術に関心のある小学校3・4年生とその保護者。  
(親子参加型なので必ず保護者同伴)

内容:展示室で作品鑑賞の後、染めものの簡単な制作体験をします。

### 第3回 絵画(油彩画)に挑戦! 小学校5・6年生

7月30日(土)

対象:美術に関心のある小学校5・6年生とその保護者。  
(親子参加型なので、必ず保護者同伴)

内容:展示室で作品鑑賞の後、油絵の具を使って簡単な制作体験をします。

場 所 石川県立美術館

時 間 13:30~15:30頃

定 員 各15組

参加費 材料費(各回で異なりますが、親子あわせて1,000円以内になります)

#### 申し込み方法

往復はがきで申し込んでください。

往復はがき裏面に参加希望の子供・保護者の氏名、お子さんの学年、住所、電話番号、希望する行事名を記入。

返信はがき表面に返信先(住所、氏名)を記入。返信はがき裏面にはこちらで印刷をしますので何も書かないでください。

応募者多数の場合は抽選となります。(返信はがきで通知いたします。)

応募締め切り 6月30日(木) 消印有効

#### 問い合わせと申し込み先

石川県立美術館 普及課「親子で鑑賞会」係  
〒920-0963 金沢市出羽町2-1

☎ 076-231-7580



## — 美術館の本 —

石川県立美術館所蔵品図録	3,500	蒔絵・人間国宝 寺井直次の世界	2,000
- 石川県立美術館所蔵 - 茶道美術名品図録	2,500	板谷波山の神々しき陶磁世界	1,900
- 石川県立美術館所蔵 - 九谷名品図録	2,000	大樋長左衛門の世界	2,200
- 古典と現代 - 花鳥風月展	1,500	没後25年 写実と幻想の巨匠 宮本三郎	2,300
- 加賀文化の華 - 前田綱紀展	2,000	彫刻家 吉田三郎展	2,000
前田利為と尊經閣文庫	2,000	ひと・ヒト・人物を描いて... 南政善回顧展	2,000
前田育徳会の名宝 百工比照	1,500	鳥と語る 詩魂の画家 脇田和展	2,200
加賀藩二代藩主前田利長の菩提寺 瑞龍寺展	2,300	北野恒富展	2,000
加賀大乗寺の名宝と月舟宗胡	1,000	鴨居玲(富山栄美子撮影)	3,000
開館10周年記念特別展 日本美の心	2,000	畠山記念館名品展	2,200
15~20世紀のロシア美術 イコンと絵画	2,000	日本の四季 - 春・夏の風物 -	1,200
戦後日本の具象美術 - 見えるものへのこだわり -	2,200		税込定価(円)
九谷焼	2,000		
石川県の工芸 - 江戸時代から現代まで -	2,000		
工芸作品と図案 - 創造への思考 -	2,000		
隅谷正峯展 - 日本刀その神秘なる彩り -	2,000		

ミュージアムショップで販売中!!

郵送ご希望の方は当館へ電話でお問い合わせ下さい。

☎ 076-231-7580

## 企画展示室

### 第35回日彫北陸展

6月16日(木)~21日(火)(第7~9展示室)

日本彫刻会は、清新にして健全なる芸術の振興を期し、公募による日彫展を開催し、一貫して新人の育成と造形芸術の向上に力を尽くしています。

本展は、4月に東京都美術館で開催した第35回日彫展の作品から、芸術院会員をはじめ日彫会役員の秀作、受賞作を中心とする基本作品58点と、石川・富山在住の会員、一般の地元作品33点、計91点を選び展示します。

雨宮淳(芸術院会員・理事長)の「春想」、富永直樹(芸術院会員・常務理事)の「アンデスの子守歌」など、我が国を代表する作品がそろい、地元では、得能節朗(北陸日彫会会長)の「春のおとずれ」、横山豊介(北陸日彫会副会長)の「緑風」などを公開します。

入場料 一般500円 大高生300円

(前売・団体は各100円引き)

当館友の会会員は、会員証提示で団体料金になります。

連絡先 金沢市弥生2-16-28 得能節朗

☎076-242-7554

### 第91回光風会展 金沢展

6月24日(金)~28日(火)(第7~9展示室)

光風会は、明治45年の創立で、数多い美術界にあって最も古く、豊かな歴史と伝統を持つ美術団体です。そのモットーは具象を基本にしながらも常に新しいリアリズムの追求に情熱を燃やし続けることです。今回の金沢展は今春東京都美術館で開催された中から基本作品89点と本県在住作家の作品38点(内基本作品3点)計124点を展示いたします。

主な出品者

中央作家

庄司栄吉(芸術院会員) 清原啓一(芸術院会員)

岡部 昭(理事 工芸)

地元作家

円地信二 松本 昇

入場料 一般700円(500円) 大高生400円(300円)

中小生無料( )内は団体料金

当館友の会会員は、会員証提示で団体料金になります。

連絡先 金沢市窪5-616

光風会石川連絡所 西田伸一

☎076-244-7411

### 各地の展覧会 ..... 6月

開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

ベルリンの至宝展 6/12まで  
東京国立博物館(台東区・03 3822 1111)

ジェームズ・アンソール展 6/12まで  
東京都庭園美術館(港区・03 3443 0201)

美術館の「春」コレクション  
モディリアーニからマグリットまで 7/3まで  
大阪市立近代美術館(仮称)(大阪市・06 6208 9096)

自然のかなた 7/3まで  
姫路市立美術館(姫路市・0792 22 2288)

アジアの潜在力 海と島が育んだ美術 5/24~7/10  
愛知県美術館(名古屋市・052 971 5511)

美術の20世紀 豊かな表現 6/4~7/10  
滋賀県立近代美術館(大津市・077 543 2111)

姉妹都市提携15周年記念「萩焼と輪島塗」6/3~7/18  
石川県輪島漆芸美術館(輪島市・0768 22 9789)

### 6月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
6/4(土)	キッズ 鑑賞講座	春の優品選を鑑賞しよう (西ゆう子 学芸主任) 小学生対象の講座です。コレクション展示を鑑賞しながらの講座になります。	講義室 コレクション展示室
6/5(日)	月 例 映 画 会	仏像の出現と展開 パール福特からグプタ仏まで(23分)	ホール
6/12(日)	ビデオ鑑賞会	国宝19 姫路城・日光東照宮(31分)	ホール
6/18(土)	ギャラリートーク	- 作陶55年記念 - 北出不二雄の世界 (村瀬博春 学芸専門員) 展示室内で行われるため、コレクション展の入場料が必要です。	コレクション展示室
6/19(日)	月 例 映 画 会	工芸 - 作家とその世界 - (21分) 九谷焼(22分)	ホール
6/25(土)	美 術 講 座	石川県立美術館の金工・木工コレクション (北澤 寛 学芸主査)	講義室
6/26(日)	月 例 映 画 会	梅原龍三郎 - 北京 - (24分) 色鍋島(29分)	ホール

6月の全館休館日は13日(月)~15日(水)です。



# 黎明に

田賀亮三 昭和5年～(1930～)

昭和57年(1982) 82 自由美術展  
縦181.6 横227.5(cm)



「豆のように、鳥のように、石のように、毛虫のように、小石のように、楽器のように、風のように、ものを見ること」。これが以前、作者の田賀氏に、今の制作課題は何ですかと尋ねたときの答えでした。奇妙で難しい言葉ですが、作品をじっと見ていると、なるほど、そういう不可思議な気分がしてきます。

画面は遠近法などは全く無視に、いろいろな形が飛び交っています。抽象のようにも思えますが、中にはテーブルや丸いす、鋏など、具体的な形を見ることができ、そうすると鋏の先は花壇であり、中にリズムカルに踊っているのは、何かの植物なのかと連想が広がっていきます。

この『黎明に』は、南方の植物が生い茂る作者の庭を描いているのです。では、画面の上半分に散らばった黒い丸は何なのでしょう。植物の種のようにも思えますし、虫のようにも思えます。庭にころがっている石をひっくり返すと奇妙な虫たちがザワザワと動きだす、そういう気分がこの黒い丸の連なり

にはあります。

暁の庭、昨日庭にいろんな草花を植え、それがまだ途中でちょっと雑然としている。今日も絵の合間に手を入れよう。そうした、とても親密な雰囲気が漂う作品です。

作者は昭和5年東京生まれ、生後半年で石川出身の父が金沢三越の支店長として赴任され、一家は金沢に移られます。終戦時に金沢第二中学を卒業され、翌年金沢美術工芸専門学校に進みますが、最初は漆工科で、後洋画科に転科、28年同研究科を修了。上京後さらに文化学院文学部やアテネフランセに学び、その後東京日仏学院に長く勤務。自由美術展には34年に初入選、以後同会会員として平成2年まで活躍され、その間39、40年にはパリ国立高等美術学校にフランス政府給費留学生として留学し、45年には自由美術賞を受賞。個展を数多く開かれ、自由奔放で物語性あふれる世界は高く評価されるどころです。

第4展示室で展示中

## ミュージアムショップ通信

今月は「二俣和紙関連グッズ」を紹介しましょう。二俣は金沢の森本川上流、医王山麓の集落で、江戸時代には藩の御用紙指定産地として栄えたところです。手漉き和紙独特の落ち着いた味わいがあります。ワープロやパソコンなどで書かれた手紙よりも、和紙にしたためられた手紙の方が書き手の暖かな心遣いが伝わってきますね。



二俣和紙関連グッズ(定価240円より) 葉書、便せん、お便りセット、封筒、名刺、ポチ袋

### 次回のコレクション展

- 特別陳列  
- 作陶55年記念 - 北出不二雄の世界(第5展示室)
- 特集  
古九谷・再興九谷名品展(前期)(第2展示室)  
6月16日(木)~7月18日(月・祝)
- 特集  
近代の美術 (前田育徳会展示室)  
6月21日(火)~7月18日(月・祝)

休館日：6月13日(月)~15日(水)

石川県立美術館だより 第260号  
2005年6月1日発行  
〒920 0963 金沢市出羽町2番1号  
TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550  
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>